

(様式4-1)

中間報告書

補助事業名	プロジェクト JOMON ー北海道・北東北の縄文文化をテーマとしたアートマネジメント人材養成プログラムー							
事業期間	令和5年5月1日～令和6年2月29日			大学名	国立大学法人北海道教育大学			
実施概要	<p>令和4年度に地域間交流の軸とした「青森」に加え、「秋田」「イギリス」へ事業を拡げて展開する。</p> <p>①フィールドワーク 大湯環状列石をはじめとした秋田県北東部の遺跡群を訪問調査する。また、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の出土品を展示しているストーンヘンジ(イギリス)を現地取材・調査することで、グローバルな観点から縄文文化を捉える。</p> <p>②セミナーの開催 専門家(考古学、民俗学、アート、メディア等)を講師に迎えたレクチャー及びフィールドワークにより、理論面を学ぶとともに歴史を体験することで、縄文文化を現代社会の手法によりマネジメントする能力を養う。</p> <p>③ワークショップ 令和4年度に引き続き、廃校を縄文文化の発信拠点として活用している室蘭市の旧絵鞆小学校を軸にしたワークショップ。令和5年度は「映像ワークショップ」と「ファミリーワークショップ」の二種類を実施する。</p> <p>④展示会の開催 レクチャー及びフィールドワークで学んだノウハウをもとに、実践を行う。</p> <p>⑤活動報告ホームページの企画 令和4年度に引き続き、本事業の講師、受講生などによるセミナーレポート、関係者へのインタビューや動画などをWEB上のホームページに集積し、今後のプロジェクトにおける教科書として活用する。</p> <p>※ 詳細(講座名, 講師名, コマ数, 公演名, 会場名, 公演回数等)は下部の各活動欄に記入してください。</p>							
共催者名・後援者名・協賛者名等とその役割	<p>一般社団法人 むろらん100年建造物保存活用会(室蘭市): 現地調査の協力、市民への広報、集客、助言</p> <p>teco,llc(青森県): 東北地方の情報を収集、コーディネート</p> <p>セインズベリー日本藝術研究所: 講師の派遣</p> <p>秋田公立美術大学: 情報の提供</p> <p>ストーンヘンジビジターセンター: 視察の協力</p>							
全活動合計	計画	実績	差	計画と実績の差異理由				
来場者	660	188	-472	活動①について、後日オンラインにより報告会及びアーカイブ動画・レポートを計画しており実績に含まれていないため。報告会開催後、実績を集計する。 活動③では回線の都合上、オンラインでの受講者数を200名から80名に制限したため。 SNSでの視聴者数は中間報告時点の人数であり、今後増加が見込まれる。 活動④ではコロナによる学級閉鎖に伴い受講を予定していた育成対象者のうち17名がキャンセルしたため。				
育成対象者	140	83	-57					
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業職員	その他
	人数	0	0	20	16	7	12	28
育成対象者具体的な職業	北海道内の芸術家・芸術団体の関係者、政府・自治体・企業の芸術文化広報・企画担当者、企業の企画担当者、マスメディア、インターネットメディア関係者、一般市民等の既にアートマネジメントに従事している者及びアートマネジメントを志す者、学生など。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	DXリテラシーや新型コロナウイルスが副次的にもたらした様々な非対面型のメディアを駆使し、時代や国境、障がいの有無といった時間的・空間的・身体的な制約にとらわれない次世代のアートマネジメント人材の養成を目標とする。 そのために、北海道・北東北の縄文遺跡群を中心とした先史美術を軸として、視覚に障がいのある人でもアートの鑑賞体験が可能な3Dモデルを活用した展示の企画・運営や世界各国の古代文明の専門家を講師に迎えたレクチャーといった高度な先進性と国際性を有する人材養成プログラムを展開する。				DXリテラシーや新型コロナウイルスが副次的にもたらした様々な非対面型のメディアを駆使し、時代や国境、障がいの有無といった時間的・空間的・身体的な制約にとらわれない次世代のアートマネジメント人材の養成を達成できている。一部後期の活動で達成されるものもある。 北海道・北東北の縄文遺跡群を中心とした先史美術を軸として、視覚に障がいのある人でもアートの鑑賞体験が可能な3Dモデルを活用した展示の企画・運営や世界各国の古代文明の専門家を講師に迎えたレクチャーといった高度な先進性と国際性を有する人材養成プログラムを展開している。 大学の強みとしては、これまでの活動で積み重ねてきた人脈・情報・資料・経験・信頼があり、これらを活かして世界レベル及び全国レベルの講師のもとへ調査に向き、またセミナーの講師を担当してもらった。その結果、上記の人材育成目標が達成できている。			
事業の社会的な役割、効果	申請時				達成状況			
	メタバースが社会実装され、世界の人々が空間・時間を超えて即座につながる事ができる社会において、デジタルトランスフォーメーション(DX)に対応できる人材がいる集団とない集団とは、情報格差が広がり続けることになる。これはアートマネジメントにおいても同様で、文化芸術経営におけるDX人材の育成は急務となっている。また、SDGsが示すように持続可能な社会の形成のためには、すべての人々(例えば視覚に障がいのある人)にアートが開かれていなくてはならないが、我が国においては発展途上である。 これらの社会課題に対し、本事業は時間的・空間的・身体的な制約にとらわれない次世代のアートマネジメント人材を養成することで問題解決に貢献する。				メタバースが社会実装され、世界の人々が空間・時間を超えて即座につながる事ができる社会において、デジタルトランスフォーメーション(DX)に対応できる人材がいる集団とない集団とは、情報格差が広がり続けることになる。これはアートマネジメントにおいても同様で、文化芸術経営におけるDX人材の育成は急務となっている。また、SDGsが示すように持続可能な社会の形成のためには、すべての人々(例えば視覚に障がいのある人)にアートが開かれていなくてはならないが、我が国においては発展途上である。 これらの社会課題に対し、本事業は前期の活動を通して時間的・空間的・身体的な制約にとらわれない次世代のアートマネジメント人材を養成しており、後期の活動で一層問題解決に貢献する。			
事業に関して学会発表、メディアでの掲載実績や予定	<p>・苫小牧市美術館で発表2023年7月15日～9月3日(発表者:伊藤隆介)</p> <p>・日本アートマネジメント学会北海道部会で発表予定(発表者:柴田尚)</p>							
事業で得た課題や経験、今後の活用方法	世界遺産登録に盛り上がる北東北に比べ、北海道は関心が低いとされているが、前期の活動の成果をオンラインで発信することで、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」への社会的関心を高めることができた。 自ら課題を発見し解決する能力、主体的な学び、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力の向上、情報を整理・分析・判断する力や発信・伝達する力の育成になった。 後期の活動でオンラインによる報告会を開催するほか、アーカイブとなる動画やレポートをさらに増やすことでその効果をさらに活用していく。							
担当者所属・氏名	財務部財務企画課 財務グループ 中原 寛基	電話	011-778-0227					
		E-mail	z-zaimu@h.jokkyodai.ac.jp					

活動①

講座名 企画名	フィールドワーク①ー縄文の広がり巡ってー(イギリス編)口							
講師名 出演者名	柴田尚／北海道教育大学芸術・スポーツ文化学科 教授 伊藤隆介／北海道教育大学芸術・スポーツ文化学科 教授 橋匡子／コーディネーター(Japan Society) サイモン・ケイナー／セインズベリー日本藝術研究所							
日時	令和5年8月5日(土)～14日(月)				コマ数	16コマ(32時間)		
会場・教室	ストーンヘンジ・ビジターセンター、 オークニー諸島の遺跡群調査					計画	実績	差
					来場者	200		-200
					育成対象者	40		-40
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設 職員	公共機関 職員	民間団体 職員	民間企業 社員	その他
	人数							
実施概要	<p>令和4年9月30日(金)～令和5年8月31日(木)まで、イギリスのストーンヘンジ・ビジターセンターで開催されている「Circles of Stone: Stonehenge and Prehistoric Japan」(環状列石:ストーンヘンジと日本先史時代)の取材・調査、関係者へのインタビューを行った。この展示会は、コロナ禍により、2年間凍結されていた展示会が解禁になったもので、日本の縄文遺跡に関する資料が展示されており、世界的な注目を浴びている。</p> <p>また、ストーンヘンジに関係が深い世界文化遺産であり、新石器文化の遺跡を社会教育や観光などに結びつけて成果を上げている地域文化振興の先行事例であるオークニー諸島の遺跡群や関連施設、諸文化プログラムについても現地調査を行った。講義自体は後日、オンラインにより報告会を開催予定。</p> <p>アーカイブとなる動画やレポートは、活動③のセミナーや活動⑩のホームページ、授業においても活用している。</p> <p>育成対象者の内訳:オンラインによる報告会后、集計する。</p>							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	<p>イギリスのストーンヘンジ・ビジターセンターで開催中の「Circles of Stone: Stonehenge and Prehistoric Japan」(環状列石:ストーンヘンジと日本先史時代)展やオークニー諸島などの現地調査により、日本の縄文文化がどのように海外で紹介されているか、また、実際にストーンヘンジとの共通項が見出せているかを調査することによって、このプロジェクトが北海道・北東北というローカルな文化をドメスティックなものではなく、グローバルで国際的な教養として捉えられることになる。</p> <p>これらをアーカイブとなる動画やレポートとして、オンラインで発信する。活動③のセミナーや活動⑩のホームページ、授業などで活用することにより、情報を整理・分析・判断する力や発信・伝達する力の育成になる。</p> <p>また、これらの活動を学ぶことにより、「プロジェクトJOMON」自体も、直接、海外への文化発信の側面を持つことになる。</p>				<p>イギリスのストーンヘンジ・ビジターセンターで開催された「Circles of Stone: Stonehenge and Prehistoric Japan」(環状列石:ストーンヘンジと日本先史時代)展やオークニー諸島などの現地調査により、日本の縄文文化がどのように海外で紹介されているか、また、実際にストーンヘンジとの共通項が見出せているかを調査することによって、このプロジェクトが北海道・北東北というローカルな文化をドメスティックなものではなく、グローバルで国際的な教養として捉えられることができた。</p> <p>後日、オンラインにより報告会を開催予定であり、アーカイブとなる動画やレポートは、活動⑩のホームページ、授業においても活用しているため、それらが終了後集計する。集計完了後、達成状況を記載する。</p>			
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	後日、オンラインにより報告会を開催予定であり、アーカイブとなる動画やレポートは、活動⑩のホームページ、授業においても活用しているため、それらが終了後に記載する。							

活動②

講座名 企画名	フィールドワーク②ー縄文の広がり巡ってー(秋田編)							
講師名 出演者名	柴田尚／北海道教育大学芸術・スポーツ文化学科 教授 伊藤隆介／北海道教育大学芸術・スポーツ文化学科 教授 立木祥一郎／アートディレクター・tecoLLC代表(東北文化コーディネーター) 畑中正人／映像作家・音楽家・テレビマンユニオン(記録)口 石倉敏明／秋田公立美術大学准教授 他 教員口							
日時	令和5年6月16日(金)～18日(日)口			コマ数	8コマ(12時間)			
会場・教室	大湯環状列石、大湯ストーンサークル館、 秋田埋蔵文化センター、伊勢堂岱遺跡、 伊勢堂岱縄文館				計画	実績	差	
				来場者	200	84	-116	
				育成対象者	30	30	0	
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設 職員	公共機関 職員	民間団体 職員	民間企業 社員	その他
	人数			9	3	3	4	11
実施概要	秋田の縄文文化と現代文化の関係などを実際に現地の遺跡群とそれらに関連する施設を訪問調査し、活動⑩のホームページにおいて文章や映像で報告する。このWEBは、他の講義で参照する。 訪問調査は、本学教員が主体となって実施した。 「大湯環状列石」、「伊勢堂岱遺跡」、及び関連する地域文化センターなどの施設を視察、関係者のインタビューなどを行い、令和4年度事業でおこなった青森県調査との比較も含めて、各地域の歴史的・文化的特性や独自の地域振興のアプローチなどについても、アートマネジメントの観点から学び、考察した。 また、秋田は日本一のストーンサークルエリアであり、フィールドワーク①のイギリスのストーンヘンジ・ビジターセンターでも大湯環状列石が紹介されている。この海を超えた両者の文化の比較にも考慮しながら調査する。活動③のセミナーにおいても紹介し、活動⑩のホームページ、授業などで活用した。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	秋田県の現地調査により、北海道の縄文との共通項、そして違いを情報収集し、アーカイブとなる動画やレポートにより、実際に体感することができる。また、それらを現地の人々がどのように受け止め、活用しているかを調査し、活動⑩のホームページにまとめることは、自ら課題を発見し解決する能力、主体的な学び、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力の向上、情報を整理・分析・判断する力や発信・伝達する力の育成になる。 また、世界遺産登録に盛り上がる北東北に比べ、北海道は関心が低いとされているが、これらの調査の成果をオンラインで発信することで、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」への社会的関心を高める効果が期待できる。				秋田県の現地調査により、北海道の縄文との共通項、そして違いを情報収集し、アーカイブとなる動画やレポートにより、実際に体感することができた。また、それらを現地の人々がどのように受け止め、活用しているかを調査し、活動⑩のホームページにまとめることは、自ら課題を発見し解決する能力、主体的な学び、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力の向上、情報を整理・分析・判断する力や発信・伝達する力の育成になった。 また、世界遺産登録に盛り上がる北東北に比べ、北海道は関心が低いとされているが、これらの調査の成果をオンラインで発信し、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」への社会的関心を高めることができた。			
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	自ら課題を発見し解決する能力、主体的な学び、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力の向上、情報を整理・分析・判断する力や発信・伝達する力の育成になった。 世界遺産登録に盛り上がる北東北に比べ、北海道は関心が低いとされているが、これらの調査の成果をオンラインで発信し、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」への社会的関心を高めることができた。							

活動③

講座名 企画名	セミナー2023第1回『地域をつなぐ点と線』							
講師名 出演者名	サイモン・ケイナー／セインズベリー日本藝術研究所 総括所長(イギリス) 立木祥一郎／アートディレクター・tecoLLC代表(東北文化コーディネーター) 三木真由美／むろらん100年建造物保存活用会理事 高橋毅／森町教育委員会ストーンサークル調査整備担当 石倉敏明／秋田公立美術大学准教授 畑中正人／映像作家・音楽家 柴田尚／北海道教育大学芸術・スポーツ文化学科 教授							
日時	令和5年9月17日(日)11時半～12時、13時～15時半			コマ数	3コマ(1コマ1時間×3コマ)			
会場・教室	旧絵鞆小学校(室蘭市)+オンライン				計画	実績	差	
				来場者	230	84	-146	
育成対象者属性				育成対象者	50	50	0	
	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
人数				11	13	4	7	15
実施概要	●午前の部(フィールドワーク・対面受講者のみ) 「旧絵鞆小学校と絵鞆貝塚ーフィールドワークを通じてー」 講師:三木真由美/むろらん100年建造物保存活用会理事 絵鞆貝塚の上に建つ廃校の活用について、実際の会場を案内し、解説した。 ●午後の部① 基調講演 「ストーンヘンジと日本先史時代」(対面+オンライン) 講師:サイモン・ケイナー/セインズベリー日本藝術研究所 総括所長 イギリスにあるセインズベリー日本藝術研究所より、日本の先史時代の考古学の第一人者の一人、サイモン・ケイナー氏を迎え、現在、ストーンヘンジ・ビジターセンターでの開催中の「環状の石:ストーンヘンジと日本先史時代」の講話を行った。 ●午後の部②「縄文人の生活と変容のコスモロジー」(対面+オンライン) 講師:秋田公立美術大学秋田公立美術大学 アーツ&ルーツ専攻 石倉 敏明 准教授 ●午後の部③「縄文文化と地域のつながり」(対面+オンライン) 講師:柴田尚/北海道教育大学芸術・スポーツ文化学科 教授 畑中正人/音楽プロデューサー 高橋毅/森町教育委員会ストーンサークル調査整備担当 石倉敏明/秋田公立美術大学准教授 立木祥一郎/アートディレクター・tecoLLC代表 「プロジェクトJOMON」に関わるコーディネーター達が、活動①や活動②フィールドワークによる取材資料や、この日のレクチャーなど、様々な活動を振り返りながら、縄文と現代の接点や、今後の活動展開を話し合うクロストークを実施。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	本セミナーは、縄文文化を、国際的な文化調査の視点、現代社会や生活の視点からスポットを当て、地域や時代を越えてつなげる文化の興味深さを迎えることにより、受講者に縄文文化にまつわる新たな視点を育成することができる。 また、アフターコロナの企画として、対面+オンライン配信のハイブリッド構成で発信する三部構成のセミナーとなるが、運営に関しては北海道教育大学の「地域プロジェクト」などの授業とも連動し、ハイブリッドによるアートプログラムの資料作りや運営方法、活用方法を学んだ人材を育成することができる。				本セミナーは、縄文文化を、国際的な文化調査の視点、現代社会や生活の視点からスポットを当て、地域や時代を越えてつなげる文化の興味深さを迎えることにより、受講者に縄文文化にまつわる新たな視点を育成することができる。 今年度は対面49名、オンライン35名、計84名であった。これは昨年度の68名を越える申し込みであり、大変関心が高かった。このうち、オンラインでは全国12都道府県からの申し込みがあり、このテーマが北海道・北東北だけに留まらず全国的に社会的関心を高めることができた。また、アンケートの結果では約9割の人々に好評であり、人材育成として考古学・芸術を超えたマネジメントの期待を高めることができた。 また、運営に関しては北海道教育大学の「地域プロジェクト」などの授業とも連動し、ハイブリッドによるアートプログラムの資料作りや運営方法、活用方法を学んだ人材を育成することができた。			
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	このテーマが北海道・北東北だけに留まらず全国的に社会的関心を高めることができた。また、アンケートの結果では約9割の人々に好評であり、人材育成として考古学・芸術を超えたマネジメントの期待を高めることができた。アーカイブ映像を配信することにより、一層の効果が期待できる。							

活動④

講座名 企画名	ワークショップ『野焼きによる土偶づくり』							
講師名 出演者名	講師: 来嶋路子 / 編集者 プロデューズ: 宇田川耕一 / 北海道教育大学芸術・スポーツ文化学科教授 映像製作: 畑中正人 / 映像作家・音楽家							
日時	令和5年9月18日(月)、9月30日(土) 各10時～15時				コマ数	5コマ(10時間)		
会場・教室	旧美流渡中(岩見沢市)+グラウンド(みる・とーぶ展)					計画	実績	差
					来場者	30	20	-10
					育成対象者	20	3	-17
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数						1	2
実施概要	<p>子供を対象にした縄文文化体験プログラムを、廃校を活用して9月18日、30日の2日間で実施。2019年3月の廃校以来、子供達が再び集まる機会を試行してきた旧美流渡中学校で、縄文文化にまつわるワークショップとして実現した。粘土による縄文土器の再現から藁による野焼きまで、縄文時代の歴史的考察に基づきリアルな再現を目指した。東京から北海道に移住した編集者の来嶋路子と受講生が中心となって、一般参加者も加わってイベントを企画・運営した。</p> <p>このワークショップの様子は活動⑤のドキュメンタリー映画のシーンの一部としても記録、活用する予定である。</p>							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	対面空間でのこどもとの交流やオンラインへのアーカイブとしての実践の場であり、それをドキュメンタリー風映画として活用するための実践でもあることから多重な構造を持つ。対面空間、オンライン空間など、それぞれを横断したプロジェクトの実践により、ポストコロナに求められるアートマネジメントの知識を得ることができる。				対面空間でのこどもとの交流やオンラインへのアーカイブとしての実践・交流の場が生まれ、それをドキュメンタリー風映画として活用するための撮影も実施した。対面空間、オンライン空間など、それぞれを横断したプロジェクトの実践により、ポストコロナに求められるアートマネジメントの知識を得ることを期待していたが、その一翼を担うための「土偶づくり」のリアルな作業場を再現したことにより、当初期待した効果を十分に達成することが出来た。			
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	対面空間でのこどもとの交流やオンラインへのアーカイブとしての実践・交流の場が生まれ、それをドキュメンタリー風映画として活用するための撮影も実施した。対面空間、オンライン空間など、それぞれを横断したプロジェクトの実践により、ポストコロナに求められるアートマネジメントの知識を得ることを期待していたが、その一翼を担うための「土偶づくり」のリアルな作業場を再現したことにより、当初期待した効果を十分に達成することが出来た。							